

---

一般講演・口頭発表 O-04

## 10年間で野外のアカミミガメ個体群に起きた変化

野田英樹 (いしかわ動物園飼育展示課)

The change of wild population structure of Red-eared slider for a decade.

Hideki NODA (*Ishikawa Zoo*)

---

2001年から2003年までに石川県内灘町河北潟で行なわれた淡水カメ類の調査で、8割の外来種アカミミガメと、2割の在来種とされるクサガメが確認された。アカミミガメは幼若個体から成体まで幅広く捕獲されたのに対し、クサガメは大型個体に偏って捕獲され、幼若個体が確認されなかった。この段階で、アカミミガメが増殖しクサガメが減少に向かっている可能性が示唆されていた。

それから10年が経過した2013年に、防除が行なわれていない同じ場所で、過去と同様の調査を行なった。その結果アカミミガメは雌雄ともより大型化し、捕獲個体数、推定個体数共に過去の調査を上回った。さらにメラニズムを起こしたオス個体の割合が50%を上回っていた。一方でクサガメは捕獲個体数が大幅に減少し、個体数推定が不可能なレベルであった。なおクサガメに関しては背甲長サイズに変化は認められなかった。

このことより、アカミミガメが移入している水域で、積極的な防除が行なわれなかった場合、アカミミガメがより増殖し、大型化することが分かった。また、クサガメはすぐに根絶されることはなくとも、徐々に数を減らしていくことが明らかになった。今後アカミミガメが特定外来生物に指定され、積極的な防除対象となった場合、どのような変化が起きるか今後も継続的に注意しておく必要がある。